

開校40周年記念式典に寄せて

令和元年（2019年）10月4日

札幌市立東月寒中学校

校長 工藤 伸哉

丘陵続く東月寒の大地にも日一日と秋の深まりが感じられる令和元年のこの佳き日に、札幌市立東月寒中学校開校40周年記念式典を挙げていただけますことを大変嬉しく思います。

本日は御多用な中、荒井PTA会長様はじめPTA役員の皆様、本校の歴代の校長先生、校区の羊丘小学校、しらかば台小学校の校長先生、豊平区の中学校の校長先生、教頭先生、保護者の皆様、丘陵会の皆様、本校に縁のある地域の皆様の御臨席を賜り、心よりお礼申し上げます。

本校は、東月寒地区の発展に伴い、地域の方々の大きな期待のもとに、昭和55年、羊丘中学校と東白石中学校の生徒を迎えて開校しました。この間、皆様に支えられ、現在までに9,085名が本校を巣立ち、社会で活躍しています。現在、東月寒中学校は、17学級498名の生徒が、明るくあいさつを交わり、授業に意欲的に臨み、落ち着いた生活を送っています。先日9月20日に実施した陸上競技大会では、「つよきからだ」を存分に発揮し、飛ぶように競技場を駆け抜け、円山陸上競技場にこだまするほどの声援を仲間を送っていました。また、昨日開かれた合唱コンクールでは、上級生が下級生に歌い方を教えたり、学級ごとに様々な工夫を凝らして熱心に練習し、その結果、どのクラスも心温まる素晴らしい合唱を発表していました。

さて、生徒のみなさん、これからの時代は生産年齢人口の急速な減少、国際化の進展、人工知能AIを代表とする技術革新などが起こり、大きく社会構造が変わる時代になると言われています。2030年には、子どもたちの65%は将来、今存在していない職業に就くのではないかと、また、半数近くの仕事が自動化される可能性が高いなどとの指摘があります。このような予測できない未来に対応するためには、学校においても、解き方があらかじめ定まった問題をただ解くだけでは不十分で、学んだ知識と様々な情報から何が重要かを主体的に判断し、自ら問いをたて、他者と共に話し合いながら解決を目指すような課題探究的な学びが必要になっています。皆さん、日頃から、授業に積極的、前向きに学ぶことを心がけてください。そして今回の合唱コンクールの練習のように「純なところ」をもってクラスの人と協力して、共に学ぶ、共に考える、共に教え合う姿勢を大切にしてください。さらに、この東月寒中学校で共に学んだ同窓を生涯の友として「高き理想」を抱いて、自らの人生をたくましく歩んでいってください。

最後になりますが、本校の校風と伝統を絶やすことなく連綿と、しかも力強く今日に至るまで繋いでくださいました同窓会、保護者の方々、丘陵会、地域の皆様に深く感謝いたします。今後も本校の教育目標である「たくましい力と英知をもった実践力のある人間の育成」のもと、皆様の期待に応えられる教育活動を実践するとともに、何より生徒が毎日楽しく学ぶことができる学校づくりに教職員一同努めて参ります。

今後とも本校への変わらぬ御支援、御指導を賜りますようお願い申し上げます、東月寒中学校開校40周年記念式典の式辞といたします。